５つの森林活動

みなさまの参加を
お待ちしております

小手澤の森

第１・３日曜日

知足の森

第１・３日曜日

相模湖・嵐山の森
小原本陣の森
草莽荘の森
不定期活動

News Letter

NPO法人緑のダム北相模
midorinodam.jp

No.537-538
草莽荘の森では、竹炭の窯が完成

【定例活動報告】

草莽荘（そうもうそう）の森

緑のダム北相模は相模原市内で活動する森林ボランティアです。急がず、無理せず、楽しく、休まず、 ボチボチと・・。

九州では雷雨、竜巻の悪天候の中相模原地区では晴れのち曇りの天候であった。森林整備班は午前中、四阿周辺のお花畑の草取りをエリア分担して実施した。

第１日曜日は朝からホームセンターに行き耐熱煉瓦とセメンとを購入し、草莽荘に行き耐熱部分の作業を行った。

竹炭窯の周りに採取してきた畑の土を入れ、ドラム缶の周囲全体を覆うことで竹炭製造の高温に耐えられる様最終作業を終えた。自己評価だがなかなかの出来栄えだと思う。学生たちは、長福寺の墓地上の竹林の間伐を行い雨にも打たれることもなく順調に作業を終えた。

第３日曜日は小手澤の森で活動を行った。特にツル系の植物がそこにある植

物に絡み草刈りを苦悩に陥れ、階段両わきの急と格闘した。
　その後、底地の竹林の整備に行ったが、かなりきれいに整備され日当りが良くなっていたのでこのまま自然に植生が変化していることが確認された。
　いずれ底地でシイタケやキクラゲなどのキノコ栽培を行いたいと考えている。

小林　照夫（本会、理事）

【定例活動報告】
知足の森

　緊急事態宣言が継続しておりますが、参加できるメンバーがその範囲で、と言いつつも毎回２０名弱が参加する活動が続いております。やはり間伐が楽しくてしょうがない、うまくなりたい、うまいと言われたい？、というモチベーションで作業が進んでおります。他にもなかなかきつい活動や、めんどくさい活動もあるのですが、そちらはまだなかなか。どの作業も森のため、自然のため、自分のたちのため、というモチベーションにしていくのがこれからの課題です。とはいえ、新入生も１０名入り、少しずつ森の活動に慣れていってもらおうと思います。今回の感想は、２年生になって、先輩になって、というものです。昨年は何もわからない１年生と高校生と大学生、という構成でしたので、新しい雰囲気が生まれつつあります。

　今回は森の活動に初めて1年生が参加してくれた。ちょうど1年前、私も同じ1年生。1年生といると1年前の私を見ているようで、懐かしかった。私がラボに入った時、森に関する知識は何もない状態だった。木を倒す時に必要な「受け口」「追い口」も全然上手に切る事ができなかった。だけど、先輩が毎回毎回木の切り方、ノコギリの上手な使い方、切った木の処理の仕方など、色々なことを丁寧に教えてくれたおかげで今、大きな木でも苦戦せずに切る事ができている。先輩のおかげでとても成長することができた。私が先輩に教えてもらって学んだことを、今度は1年生にも自分が先輩としてそれを伝えていく必要があると感じた。だから、1年生に、自分が教えられる範囲で精一杯教えられるよう、頑張った。

　コロナ禍で部活動も制限され、後輩と接する機会がほとんどなく、自分が先輩になったということをあまり実感していなかった。そのため、今回の活動は、自分が先輩になり、後輩に色々なことを伝えていく立場になったということを大きく実感できる良い場になったと思う。

飯室　智春
（GREEN TECH ENGINEER LAB　中学２年）

桜井尚武の森のコラム

「身近なケヤキ (*Zelkova serrata*)」

図1　ケヤキ並木

20201107つくば

ケヤキは日本では本州、四国、九州の山地に自生しますが実際に出会うことは少ないと思います。しかし栽培は容易で成長がよく材質が優れていて用途が広いので身の回りによく見られます。街路樹や公園樹に多いので馴染み深いでしょう（図1）。大きな枝を張るケヤキ並木は昨今の暑い夏には心地よい日陰を作ってくれます。

ところが各地の市街地では大胆に（無残に）枝を刈り込むというより葉を無くしてしまうまで伐採してしまうのが眼につきます（図2）。初めて気付いたときには植物の生理を知らない園芸業者や土木業者が工学的感覚でやっているんだなあ、と思いました。でもこんな枝下ろしの様子はイチョウやプラタナスなどの他の高木にも普遍的にみられることから、発注者の区や市の管理主体の感覚がそうなっているのだと考えざるを得なくなりました。このケヤキは翌年多数の枝垂れた新枝を発生させます（図3）。これは取り除かれてしまった本来の樹冠システムを早急に回復しようとする生きるための対応でしょう。シッカリした枝よりも、弱々しい枝でもまず発生させて個体を維持できる量の葉を茂らせようとする生理対応です。こんな極端な枝下ろしが各地で行われるのは壮大に枝を広げて道路を覆うために管理上不都合と考える管理者がいるためでしょう。

図2　ケヤキ街路樹

20200223南千住

図3　枝おろし後の新枝

20200513汐入公園脇

そこで枝を張らないケヤキが登場します。1970年代に旧埼玉県林試が見つけ出し増殖してムサシノケヤキと名付けたものがそれです（図4）。枝の張り方が箒状形でなく竹箒状と説明しています。これは東京駅前のものですが、最近では各地の公園などで見られるようになりました。壮大な枝張りが疎まれるようになるとは、自然回帰、自然愛好者が増えているという世相の底の浅さを憂います。

桜井　尚武（本会、会員）

図4　ムサシノケヤキ

20190315東京駅丸の内口

【事務局より活動報告】

　緑のダム北相模の創設者の石村前理事長宛に従来から知り合いだった現森多可示副市長からのお声掛りで6月4日市役所で行われたミーティングの内訳を報告致します。相模原市役所からは相模原市環境経済局長鈴木由美子氏、環境経済局経済部長若林和彦氏他3名の重鎮の皆様に貴重な時間を取って頂いての貴重な意見交換でした。

　ポイントは、2021年4月に新設された部署として環境経済局経済部森林政策課の新設目的に森林政策に関わる相模原市の森林事業を具体化してサポート体制を構築するものです。
市の５８％を占める森林を有す市政に課せられた大きな課題である。SDGsを始めとする環境問題にしっかり取組んで行きたいとの姿勢が感じられた。

　私たちNPO法人緑のダム北相模に求められ、期待される課題に対し、市と協業、協力しながら実践できることは何かを模索してゆくつもりです。

　森林政策課は、森林環境税の有意義な活用方法について緑のダムをはじめ市内のボランティア団体に活動のヒントと協業を提案されるものと理解した貴重な一日でした。これから相模原市の森林環境問題にスポットを当てた活動に私たちも注目していく必要があります。

小林　照夫（本会、理事）

※写真はさがみはらSDGsパートナーの登録証盾交付式のときのものです。

NPO法人
緑のダム北相模

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
現地事務局：〒252-0172　相模原市緑区与瀬本町12　かどや食堂内
支援団体：セブン-イレブン記念財団
　　積水ハウスマッチングプログラム、国土緑化推進機構
　　コンサベーション・アライアンス・ジャパン
協働団体：神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、
　　東京学芸大学環境教育研究センター、
　　（社）東京学芸大EXPLAYGROUND推進機構、
　　（社）さがみ湖 森・モノづくり研究所、ウッドバンク㈱

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前に集合です。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、昼食

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

緑の募金　一般財団法人 セブン-イレブン 記念財団　SEKISUI HOUSE MATCHING PROGRAM　CAJ Conservation Alliance Japan 一般社団法人 コンサベーション・アライアンス・ジャパン